

第 16 回資源管理手法検討部会の結果について（案）

令和 5 年 11 月 2 日
水産政策審議会
資源管理分科会
資源管理手法検討部会

令和 5 年 7 月 21 日（金）に開催された第 16 回資源管理手法検討部会で整理された論点及び意見は次のとおり。

1. サワラ日本海・東シナ海系群

● 漁獲等報告の収集について

- 管理銘柄別の漁獲情報等、資源評価・管理に必要な情報を収集できる体制の整備が必要。
- 自由漁業による漁獲や市場外流通、他県への水揚について把握する体制の整備が必要。
- 同一の報告内容となる T A C 報告と漁獲成績報告書との一元化や I C T 化が必要。
- 数量管理に取り組んだ結果漁獲されなかった数量について把握する方法を検討すべき。

● 資源評価について

- 資源評価に用いたデータ及び評価のプロセスについて、わかりやすく丁寧に説明してほしい。
- 漁獲の大半を占める中国や韓国の漁獲情報を用いた資源評価とすべき。
- 2 系ルールの資源評価に基づく数量管理の導入には懸念があるため、資源評価の高精度化を進め、M S Y ベースの資源管理目標や将来予測を示すべき。また、資源評価の高精度化に係るスケジュールの見通しについても示して欲しい。
- 遊漁の採捕量を把握し、資源評価に組み込むべき。

● 資源管理について

- 選択的に漁獲できない定置網漁業や混獲が主体であるまき網漁業の特性、また、急激な漁獲の積み上がりへの対応等を念頭に置いた、柔軟な T A C 管理の方策を検討すべき。
- 中国や韓国とも資源管理について協議を行い、漁獲情報の共有等から始め、国際的な資源管理体制を構築すべき。
- 近年、曳き縄漁業などでサワラへの依存度が高まっていることを踏まえ、漁業経営や地域経済を考慮し、中長期的に安定した T A C が設定される漁獲シナリオや柔軟な T A C 管理の方策を検討すべき。
- 遊漁を含めた資源管理体制について検討すべき。

● S H 会合で特に説明すべき重要事項について

- 資料は早めに公開し、会議での説明や資料は漁業関係者にわかりやすくしてほしい。
- 中国や韓国の漁獲が大半を占めるなか、我が国が数量管理に取り組む妥当性について示してほしい。

2. トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群

● 漁獲等報告の収集について

- デジタル化の進展等により、現場に過度な負担がかからないような漁獲報告体制の構築が必要。
- 漁協、市場出荷については把握が可能だが、市場外流通や遊漁の数量を把握する方法を検討すべき。

● 資源評価について

- 資源評価に用いたデータと、資源評価プロセスについて、わかりやすく丁寧に説明すべき。
- 経済的価値を踏まえた暫定的な管理目標を設定した場合の将来予測シナリオも示すべき。
- 海洋環境の変化に伴う漁場形成の変化を考慮すべき。
- 従来の分布域外の地域（関東及び東北）での漁獲の急増について、漁獲状況を把握し、系群構造の変化等の解明が必要。

● 資源管理について

- 漁業者間で不公平とならないように平等な資源管理体制を構築する必要がある。
- 遊漁を含めた資源管理体制について検討すべき。
- 漁業経営だけでなく加工・流通業等周辺産業にも考慮した柔軟な管理方法、漁獲シナリオを検討してほしい。
- 混獲種の数量管理を適切に運用するための具体的な方策を提示してほしい。
- 漁獲努力量による管理や栽培漁業を含めた包括的な管理体制を検討すべき。
- 仮に環境変化等の要因により厳しい漁獲規制が一定期間継続した場合に、周辺産業を含め、経営を継続できるような支援制度を整備すべき。

● SH会合で特に説明すべき重要事項について

- SH会合での説明や資料は漁業関係者に理解が得られるようにわかりやすくして欲しい。
- 資源評価の精度、データセット、外国との交流、種苗放流の効果、遊漁への考慮等について説明して欲しい。
- TAC 導入についてはスケジュールありきではなく、漁業者が納得できるよう複数回開催の上で慎重に進めるべき。
- 水産庁補助事業で設定したKPIについて、漁獲量が削減された場合の取扱を説明して欲しい。

3. トラフグ伊勢・三河湾系群

● 漁獲等報告の収集について

- 基本的に市場・漁協経由で漁獲報告の収集体制はあるが、市場外流通が存在／増加する場合には、その報告の収集方法について検討すべき。
- 遊漁等も含めて、全ての採捕者に報告させることが必要
- 自由漁業や主対象としていない漁業での漁獲量を把握・管理のする方法を検討すべき。

● 資源評価について

- 資源評価の不確実性が高く、資源管理目標が必要以上に保守的に設定されている可能性があるため、その妥当性について丁寧に説明すべき。
- 従来の分布域以北の地域（関東及び東北）での漁獲の急増について、漁獲状況を把握し、系群構造の変化等の解明が必要。
- 関係県の水産試験場の研究員と水産機構の研究員が議論を重ねて資源評価について再考すべき。

● 資源管理について

- 漁業者間で不公平とならないように平等な資源管理体制を構築する必要がある。
- 遊漁を含めた資源管理体制について検討すべき。
- 管理期間は、主要漁業であるはえ縄漁業の開始時期からとすべき。
- 再生産関係が不安定で寿命が長いというこの資源の特色を踏まえた運用方法の検討が必要
- 卓越年級群の発生や急激な資源の減少の際の対応について漁業者と検討した上で決めておくべき。
- 栽培漁業を含めた包括的な管理体制を検討すべき。
- 漁業経営だけでなく流通や観光業等周辺産業への影響も考慮した柔軟な管理方法、漁獲シナリオを検討してほしい。
- 仮に環境変化等の要因により厳しい漁獲規制が一定期間継続した場合に、周辺産業を含め、経営を継続できるような支援制度を整備すべき。

● SH会合で特に説明すべき重要事項について

- 検討部会で出された問題点・意見に対する対応を具体的に説明すべき。
- 数量管理の有効性と現行の自主的な管理のメリット、デメリットを比較し、トラフグをTAC対象種とする理由を説明すべき。
- 自主的資源管理だけでは不十分な理由を説明すべき。
- トラフグの分布の変化について、説明すべき。

(以 上)

第 17 回資源管理手法検討部会の結果について（案）

令和 5 年 11 月 2 日
水産政策審議会
資源管理分科会
資源管理手法検討部会

令和 5 年 8 月 7 日（月）に開催された第 17 回資源管理手法検討部会で整理された論点及び意見は次のとおり。

1. ソウハチ北海道北部系群

● 資源評価について

- 調査船調査の充実や沿岸漁業のデータも用いた解析、漁業実態を踏まえた評価など、資源評価の精度向上が必要。
- 1 C 系の資源評価手法や、その妥当性のほか、本資源の資源評価で算定された A B C は、雌雄や漁獲可能サイズ以上を全て合わせた資源量に基づいていること、これまでの自主的な資源の取組の継続が前提となっていること等、資源評価の内容についても丁寧に説明すべき。
- 仮に過去に遡って A B C を算出した場合、実際の漁獲実績と大きな差があると思われるところ（例：令和 3 年に資源評価を行ったと仮定して令和 4 年の A B C を算出し、令和 4 年の漁獲実績と比較）、具体的な数値について示すとともに、差が生じる背景について整理すべき。

● 資源管理について

- 魚価が下落している現状等を踏まえ、漁獲量の最大化を目指すのではなく、資源の利用実態や、漁業経営、加工・流通状況を考慮した目標管理基準値を設定してほしい。
- 漁獲実績に基づく配分ではなく、関係者による別途の合意に基づく配分や、総量での一括管理を検討すべき。
- 複数魚種が一緒に漁獲される実態等を踏まえ、柔軟な管理手法（例：配分をせず、系群全体での一括管理やソウハチ・マガレイの一括管理等）を含む混獲管理の内容について、具体的に提示してほしい。
- ステップアップ方式による T A C 管理にあたっては、新たな資源評価手法が用いられていることも踏まえ、具体的な課題を抽出した上で、当該課題を踏まえた期間を設定し、課題を解消した上で次のステップに進むべき。
- （資源評価の将来予測を基にした）幅を持った T A C 設定や、T A C を複数年固定とするなど、柔軟な漁獲シナリオについて具体的な内容を検討し、リスク評価の結果を含めて示すべき。
- サイズ規制を基本とした管理協定に基づく管理を継続すべき。

● SH会合で特に説明すべき重要事項について

- これまでの30年間にわたる自主的な資源管理の取組に加えて、資源の利用実態、魚価、流通の変化等、現場の漁業の状態を説明すべき。
- これまでの資源管理の取組により資源状況が良好であり、現状の漁獲圧で漁獲しても目標管理基準値を100%達成すると予測されているなか、また、当該資源の漁獲量が我が国の総漁獲量に占める割合が極めて少ない中で、数量管理を導入する必要性を説明してほしい。
- 数量管理に取り組む意義について、漁業者だけではなく、加工・流通業者も含めた関係者が理解できる説明が必要。

2. マガレイ北海道北部系群

● 漁獲等報告の収集について

- 漁獲報告の体制は基本的に整っているが、一部地域での雑魚（その他）として計上されている漁獲量を把握する体制の構築が必要。

● 資源評価について

- 調査船調査の充実や沿岸漁業のデータも用いた解析、漁業実態を踏まえた評価、未集計の漁獲量を含めた評価など、資源評価の精度向上が必要
- 1C系の資源評価手法や、その妥当性のほか、本資源評価において、資源量推定の幅・年変動がソウハチよりも広がる仕組み、これまでの自主的な資源の取組の継続が前提となっていること等、資源評価の内容についても丁寧に説明すべき。
- 仮に過去に遡ってABCを算出した場合、実際の漁獲実績と大きな差があると思われるところ（例：令和3年に資源評価を行ったと仮定して令和4年のABCを算出し、令和4年の漁獲実績と比較）、その具体的な数値について示すとともに、差が生じる背景について整理すべき。

● 資源管理について

- 魚価が下落している現状等を踏まえ、漁獲量の最大化を目指すのではなく、資源の利用実態や、漁業経営、加工・流通状況を考慮した目標管理基準値を設定してほしい。
- 漁獲実績に基づく配分ではなく、関係者による別途の合意に基づく配分や、総量での一括管理を検討すべき。
- 複数魚種が一緒に漁獲される実態等を踏まえ、柔軟な管理手法（例：配分をせず、系群全体での一括管理やソウハチ・マガレイの一括管理等）を含む混獲管理の内容について、具体的に提示してほしい。
- ステップアップ方式によるTAC管理にあたっては、新たな資源評価手法が用いられていることも踏まえ、具体的な課題を抽出した上で、当該課題を踏まえた期間を設定し、課題を解消した上で次のステップに進むべき。
- （資源評価の将来予測を基にした）幅を持ったTAC設定や、TACを複数年固定とするなど、柔軟な漁獲シナリオについて具体的な内容を検討し、リスク評価の結果を含めて示すべき

- (ソウハチ北海道北部系群に比べて) 資源量の将来予測の年変動が大きいことから、当該資源評価の不確実性を踏まえ、 β を低く設定するのではなく、柔軟な管理の内容について検討すべき。
- サイズ規制を基本とした管理協定に基づく管理を継続すべき。
- 遊漁の管理の方向性について示すべき。

● **SH会合で特に説明すべき重要事項について**

- これまでの30年間にわたる自主的な資源管理の取組に加えて、資源の利用実態、魚価、流通の変化等、現場の漁業の状態を説明すべき。
- これまでの資源管理の取組みにより資源状況が良好であり、現状の漁獲圧で漁獲しても目標管理基準値を100%近い確率で達成すると予測されているなか、また、当該資源の漁獲量が我が国の総漁獲量に占める割合が極めて少ない中で、数量管理を導入する必要性を説明してほしい。
- 数量管理に取り組む意義について、漁業者だけではなく、加工・流通業者も含めた関係者が理解できる説明が必要。

(以 上)

水産資源ごとの検討進捗状況（令和5年11月2日時点）

水産資源	資源評価結果の公表	資源評価結果説明会	資源管理手法検討部会	ステークホルダー会合
〸 カタクチイワシ対馬暖流系群 ウルメイワシ対馬暖流系群	令和3年9月30日	—	令和3年12月14日	第1回: 令和4年3月3日 第2回: 令和5年2月15,16日
			令和3年11月29日	第1回: 令和4年3月28日 第2回: 令和5年3月7日(カタクチイワシ) 第3回: 令和5年9月22日(カタクチイワシ)
ヒラメ瀬戸内海系群	令和3年12月24日	—	令和4年2月8日	今後開催
マダラ本州日本海系群 ソウハチ日本海南西部系群 ムシガレイ日本海南西部系群 ニギス日本海系群			令和4年2月25日	マダラ本州日本海系群… 第1回: 令和5年3月9日 第2回: 令和5年7月4日
マダラ本州太平洋系群 ヤナギムシガレイ太平洋北部系群 サメガレイ太平洋北部系群			令和4年3月17日	マダラ本州太平洋系群… 第1回: 令和5年3月23日 第2回: 令和5年8月7日
マダイ瀬戸内海中・西部系群 マダイ日本海西部・東シナ海系群			令和4年4月21日	日本海西部・東シナ海系群… 第1回: 令和5年5月16日
ブリ			令和4年7月11日	第1回: 令和5年10月11日
カタクチイワシ瀬戸内海系群	令和4年9月30日	令和4年10月21日	令和4年11月21日	第1回: 令和5年5月30日 第2回: 今後開催(令和5年12月頃予定)
ムロアジ類東シナ海系群 キンメダイ太平洋系群			令和4年12月20日	今後開催
マダラ北海道太平洋、北海道日本海		令和5年1月11日	令和5年3月3日	今後開催
ヒラメ日本海北部系群 アカガレイ日本海系群 ベニズワイガニ日本海系群		令和5年1月18日	ヒラメ日本海北部…令和5年3月17日 それ以外…令和5年5月22日	今後開催
マダイ瀬戸内海東部系群 イカナゴ瀬戸内海東部		令和5年1月20日	イカナゴ瀬戸内海東部…令和5年5月22日 マダイ瀬戸内海東部…令和5年6月12日	今後開催
トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群 ヒラメ日本海中西部・東シナ海系群 サワラ日本海・東シナ海系群	令和4年12月23日	令和5年1月25日	ヒラメ日本海中西部・東シナ海…令和5年3月17日 トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海、 サワラ日本海・東シナ海…令和5年7月21日	今後開催
ヒラメ太平洋北部系群 トラフグ伊勢・三河湾系群		令和5年1月27日	ヒラメ太平洋北部…令和5年4月24日 トラフグ伊勢・三河湾系群…令和5年7月21日	今後開催
サワラ瀬戸内海系群		令和5年1月31日	令和5年6月12日	今後開催
ホッケ道北系群		令和5年3月28日	今後開催	今後開催
ソウハチ北海道北部系群 マガレイ北海道北部系群	令和5年6月9日	令和5年7月6日	令和5年8月7日	今後開催